

地質標本館 開館 40 周年

森田澄人・小川 浩・常木俊宏・澁谷 史・五十嵐幸子・朝川暢子・清水裕子・中村由美
(産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター 地質標本館室)

8月19日、地質標本館は1980年の開館から40周年を迎えました。今年新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2月末から5月一杯までの約3か月間、臨時休館せざるを得ない状況でした。6月の再開以降は、衛生面やソーシャルディスタンスへの配慮はもちろん、事前予約制の導入や同時入館人数の制限、検温装置の設置など、新たな感染防止対策を講じながら運営を続け、そのような中で40周年が迎えられました。昨年度末に開館40周年記念ピンバッジ(写真1)を作成し、再開以降は当館を応援して下さる来館者の皆さんに配布しました。開館記念日の8月19日は玄関前にくす玉を準備しました。当日、最初の来館者となった宮城県宮城第一高等学校の生徒さんの代表にくす玉を割っていただき、生徒と先生の全員に記念品を贈呈しました(写真2)。遠路来られた皆さんにはサプライズとなり、大変喜んでいただきました。折から開催中の特別展「祝チバニアン誕生！—国際境界模式層と地磁気の逆転とは?—」も花を添える形となり、ご好評をいただきました。新型コロナウイルス感染については、いまだその動向は予断を許さず、試行錯誤を繰り返しの標本館運営が今後

も続きます。「コロナ時代」に対応した展示解説やその他の工夫など、ミュージアムとしての充実に向けて努力して参ります。皆様方の更なるご支援をお願いいたします。



写真1 地質標本館開館40周年記念バッジ



写真2 宮城県宮城第一高等学校の皆さんの記念撮影